

平成 27 年度 福岡こども短期大学  
自 己 点 検 評 価 書  
〔日本高等教育評価機構〕

平成 28(2016)年 5 月  
福岡こども短期大学

1

## 目 次

I. 建学の精神・短期大学の基本理念、使命・目的、短期大学の個性・特色等 . . .	3
II. 沿革と現況 . . . . .	4
III. 評価機構が定める基準に基づく自己評価 . . . . .	5
基準 1 使命・目的等 . . . . .	5
基準 2 学修と教授 . . . . .	10
IV. 短期大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価 . . . . .	42
基準 A 地域貢献 . . . . .	42

## I. 建学の精神・短期大学の基本理念、使命・目的、短期大学の個性・特色等

### 1. 本学の建学の精神

「個人には、人それぞれ固有の優れた特性」が存在し、これを仏教用語において「第一義体」と呼ぶことから、福岡こども短期大学の前身である第一保育短期大学の第一は、NO.1の第一ではなく、この「固有の優れた特性」である第一義体というものから生まれた名称である。「この第一義体つまり各個人の第一義体的な個性と可能性を引き出し、伸ばし、育てるといふことこそ教育の本義である」と唱えたのが、都築学園グループの創始者である都築頼助の言葉である。この言葉に裏打ちされた「個性の伸展による人生練磨」こそ、本学の建学の精神であり、学園グループ共通の精神といえるものである。

先述したように、学生個人一人一人は、すでに第一義体である特性と得意分野をこれまでの教育や育ちの中で形成している。本学は建学の精神である「個性の伸展」に基づく保育者養成、つまり学生個人の特性や得意分野をさらに向上させ、それらの素養や技能を有する保育者養成を行うことで、学生各々が将来にわたって保育者として社会貢献できる人間形成を深めていくことに邁進するものである。

### 2. 本学の使命・目的について

本学の学則第一条には、本学の使命・目的として、「本学は、日本国憲法、『個性の伸展による人生練磨』を建学の精神として掲げ、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、国家及び社会の形成者として豊かな人格の完成を目指すとともに、本学建学の精神に則り、個性の伸展を図りつつ幼児保育に関する教授研究を行い、心身健全で、知的、道徳的及び創造的能力をもって幼児教育にあたる有為な人材を育成し、さらに学術の深化、文化の向上に貢献することを使命とする。」と規定しているものである。

加えて平成22年度から認可された「養護教諭二種免許状の教育課程」に関しても、学校保健活動の担い手である養護教諭の養成を図ることを目的として開設したものとは異なる。幼児教育、保育現場における保健的課題としてあげられる慢性的な流行を呈している感染症、アレルギー、外傷に関するトラブル、ネグレクトに代表される児童虐待、発達障がい等の諸問題に関しての応急的な処置から諸機関、諸施設との連携に至るものまでに対応しうる保育者養成を、現場である幼稚園、保育園、こども園、児童福祉施設などからの社会的要請に応える形で開設に至った次第であり、その意味からも学則での「幼児教育にあたる有為な人材を育成し、さらに学術の深化、文化の向上に貢献する」という使命に合致するものである。

## II. 沿革と現況

## 1. 本学の沿革

年	月	
昭和 50 年	1	第一保育短期大学（幼児教育学科）設置認可
昭和 50 年	4	第一保育短期大学（幼児教育学科）開学 初代学長に田中勝規就任
昭和 50 年	6	後援会設立総会
昭和 51 年	2	入学定員増認可
昭和 51 年	8	第 1 紅梅寮竣工
昭和 52 年	2	保母を育成する学校としての指定認可（福岡県知事）
昭和 52 年	3	同窓会発会式
昭和 52 年	4	学長に都築 貞枝就任
昭和 52 年	6	第 2 紅梅寮竣工
昭和 53 年	4	第一保育短期大学本館竣工
昭和 53 年	9	厚生会館竣工
昭和 55 年	1	学長に都築 泰壽就任
平成 61 年	11	開学 10 周年記念公開保育フェスティバル（福岡サンパレスにて）開催
平成元年	9	幼児教育研究会がアジア太平洋博に出演
平成 5 年	10	幼児研究会全員が国際ソロプチミストより Σソサエティ会員に認証される
平成 6 年	10	こども劇場竣工
平成 8 年	4	新厚生会館竣工
平成 13 年	4	学長に都築仁子就任
平成 19 年	7	文部科学省より収容定員増認可
平成 20 年	3	厚生労働省及び福岡県より収容定員増認可
平成 20 年	4	幼児教育学科をこども教育学科に名称変更
平成 20 年	9	九州厚生局養成施設実地調査適正と認定
平成 20 年	12	文部科学省より収容定員減認可
平成 21 年	3	厚生労働省及び福岡県より収容定員減認可
平成 22 年	4	文部科学省より「養護教諭二種免許状」課程認定

## 2. 本学の現況

- ・ 短期大学名 : 福岡こども短期大学
- ・ 所在地 : 福岡県太宰府市五条 3 丁目 1 1 番 2 5 号
- ・ 学科構成 : こども教育学科
- ・ 学生数、教員数、職員数 : 学生数 : 499  
教員数 : 26  
職員数 : 14

## Ⅲ 評価機構が定める基準に基づく自己評価

## **基準Ⅰ 使命・目的等**

### **1-1 使命・目的及び教育目的の明確性**

#### **《1-1の視点》**

#### **1-1-① 意味・内容の具体性と明確性**

#### **1-1-② 簡潔な文章化**

### **(1) 1-1の自己判定**

基準項目1-1を満たしている。

### **(2) 1-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己判定）**

#### **1-1-① 意味・内容の具体性・明確性**

本学の使命・教育目的に関しては、学則第1条において「本学は、日本国憲法、「個性の伸展による人生練磨」を建学の精神として掲げ、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、国家及び社会の形成者として豊かな人格の完成を目指すとともに、本学建学の精神に則り、個性の伸展を図りつつ幼児教育に関する教授研究を行い、心身健全で知的、道徳的及び創造的能力をもって幼児教育に当たる有為な人材を育成し、さらに学術の深化、文化への向上に貢献することを使命とする。」と規定し、学生及び教職員への周知のため、「学生要覧」に明文化している。

また「学生要覧」を使って、入学式直前あるいは直後の新入生オリエンテーション時において新入生に理解を図るとともに、高校生及び保護者に対しては、オープンキャンパスでの概要説明や本学ホームページにおいての情報公開の項目にも掲載して明確性を保持している。

また本学の使命・目的を具現化したものが本学独自の演習授業と位置づけられる「幼児教育研究会」活動による「幼児教育研究Ⅰ(1年次通年科目)」「幼児教育研究Ⅱ(2年次通年科目)」である。ゼミ形式であり、各研究会20名程度の少数人数によって開講される「幼児教育研究会」は全部で27研究会によって構成され、学生は各々の特性、得意分野に適する研究会を選択し、2年間受講することで更なる特性、得意分野の向上と深化を進めていくものである。また2年次開講の演習科目「保育方法論」においても、幼自体育、身体表現、幼児音楽、音楽表現、造形美術、言語表現といったコースを学生が本人の特性や得意分野に応じて選択し、具体的な保育計画の立て方から附属園園児との研究保育までを履修する実践的科目であり、これらは正に建学の精神「個性の伸展による人生練磨」に基づいた保育者養成という本学の使命の具体性としてあげられるものである。【資料 1-1-1】【資料 1-1-2】【資料 1-1-3】

#### **1-1-② 簡潔な文章化**

本学の使命は、学則の第一条で明示され、その簡潔な文章化は、本学ホームページの「本学の特徴」「情報公開」において平易な簡潔化された文章によって示されている。

【資料 1-1-4】【資料 1-1-5】

### **(3) 1-1の改善・向上方策 (将来計画)**

大学の使命・教育目的は、大学に求められる時勢や社会環境からの要請によって、未来永劫全く変わらないものではない。しかし本学の場合、使命・教育目的は、幼児教育者・保育者養成の根幹に基づいたものであると同時に、本学はこども教育学科のみを標榜する単科の短期大学でもある。よって本学の使命かつ教育目的は、開校から今日に至るまで、求められる社会的要請に十分耐えうるものであることから、早急に改善する必要はないと考える。

ただし学則第1条に代表される本学の使命・目的は、必ずしも高校生やその保護者そして初めてそれに触れる者に、容易に理解できる文章とは言い難い。それらを第三者が平易に理解しうるように、表現方法も改善していくことは必要と考える。

#### **【エビデンス集・資料集】**

【資料 1-1-1】 エビデンス集 資料編 F-2

福岡こども短期大学案内パンフレット

【資料 1-1-2】 エビデンス集 資料編 F-3 福岡こども短期大学学則

【資料 1-1-3】 エビデンス集 資料編 F-5 学生要覧

【資料 1-1-4】 エビデンス集 資料編 F-3 福岡こども短期大学学則

【資料 1-1-5】 本学 HP (情報公開) (資料 1-1-1 と同じ)

### **1-2 使命・目的及び教育目的の適切性**

#### **《1-2の視点》**

#### **1-2-① 個性・特色の明示**

#### **1-2-② 法令への適合**

#### **1-2-③ 変化への対応**

#### **(1) 1-2の自己判定**

基準項目 1-2 を満たしている。

#### **(2) 1-2の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)**

### 1-2-① 個性・特色の明示

学則第1条及び本学ホームページの情報公開における本学の使命・目的では、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」の基づく、学生個人が持つ第一義体を生かした教育によって、豊かな人格形成及び幼児教育者・保育者養成をめざすことがしっかり謳われている。【資料 1-2-1】【資料 1-2-2】

### 1-2-② 法令への適応

学校教育法第108条において、短期大学は「深く学芸において教授研究を行い、職業、実際生活における必要な能力を育成させる」と規定されている。本学の使命・目的においても『本学の建学の精神に則り、個性の伸展を図りつつ幼児教育に関する教授研究を行い、幼児教育に当たる心身健全で、知的、道徳的及び創造的能力を持って幼児教育に当たる有為な人材を育成する。』と明記していることから適応している。【資料 1-2-3】

### 1-2-③ 変化への対応

昭和50年の開学以来、本学の使命・目的は一貫している。これは戦後画一的な集団教育が進む中で、本学は既述したように、学生個人の個性の伸展を図りながら、その時点での社会が要請する幼児教育者・保育者を養成することを使命・目的に掲げ、1万数千人の幼児教育者・保育者を社会に送り出している。よってその確認は行っているが、変更はない。

### (3) 1-2の改善・向上方策 (将来計画)

将来、時勢や社会的要請の大きな変化があれば、本学の使命・目的は変更があると考えられるが、現時点ではそれらの維持を大切に考えている。

#### 【エビデンス集・資料集】

【資料 1-2-1】 エビデンス集（資料編）F-3 福岡こども短期大学学則

【資料 1-2-2】 本学 HP（情報公開）（資料 1-2-1 と同じ）

【資料 1-2-3】 エビデンス集（資料編）F-3 福岡こども短期大学学則

### 1-3 使命・目的及び教育目的の有効性

## 《1-3の視点》

- ① 役員、教職員の理解と支持
- ② 学内外への通知
- ③ 中長期的な計画及び3つの方針等への使命・目的及び教育目的の反映
- ④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

### (1) 1-3の自己判定

基準項目1-3を満たしている。

### (2) 1-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 1-3-① 役員、教職員の理解と支持

本学が所属する都築育英学園は、関連校として日本経済大学、リンデンホール小、中高学部がある。その他福岡市南区にある第一薬科大学、福岡第一高等学校を中心とした都築学園、鹿児島市霧島市の第一工業大学、第一幼児教育短期大学を拠点とする都築教育学園等を含め、すべての関連学園、関連校はすべて同じ建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を掲げ、各々経済人、薬剤師、エンジニア等養成、教育する業種は異なるが、この建学の精神に基づいた使命・目的を有する。

そして役員及び教員は、理事会、教授会、各種委員会などの機会ごとに本学の使命・目的の共通理解を図っており、それらを指示している。

さらに、その教育課程における教育支援、学生支援、就職支援などを行う事務職員もそれらを十分理解し支持している。【資料 1-3-1】

#### 1-3-② 学内外への周知

使命・教育目的の周知に関して学内では、入学式における学長告辞での表明、学生要覧による新入生向けまた新年度のオリエンテーションにおける説明、また敷地内や教室での掲示がなされている。

また学外へは、本学案内パンフレット、ホームページにて、またオープンキャンパス、教員による高校生向けのガイダンス、高校訪問時の本学説明の機会も利用して周知を図っている。【資料 1-3-2】【資料 1-3-3】【資料 1-3-4】

#### 1-3-③ 中長期的な計画及び3つの方針などへの使命・目的及び教育目的の反映

中長期的な計画では、学園法人本部主導による「経営・学校運営5か年計画」、教授会での検討から生まれた幼児教育分野における保健・看護面の履修強化としての平成22年時からの「養護教諭二種免許状課程」の開設があげられる。

また本学の3つの方針即ち、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・デ

ィプロマポリシーすべてにおいて、建学の精神「個性の伸展による人生練磨」に基づいた入学生受け入れの基本的理念とその評価システム、教育課程の基本概念と方向性そしてそれらの評価を根拠とした単位習得に基づく短期大学士の学位授与を謳っている。【資料 1-3-5】【資料 1-3-6】

### 1-3-④ 使命・目的及び教育目的と教育研究組織の構成との整合性

本学は、既述の通り、こども教育学科単科の短期大学である。よって教育及び研究は自ずと本学で免許・資格取得できる幼児教育と養護の分野に特徴づけられる。

教務・実習・学生支援・就職支援・図書館・研究活動はすべて教務・実習・学生・就職・図書・紀要などの規定に基づいた委員会で課題が検討なされた後、運営委員会である部長会議で精査され、教授会にあげられるシステムで機能的に運営されている。そしてそれらの根拠となる各規定は、建学の精神に基づいた使命・目的を規定する学則に準拠し、自ずと整合性が認められるのである。【資料 1-3-7】【資料 1-3-8】

【資料 1-3-9】

### (3) 1-3の改善・向上方策 (将来計画)

これまで記述してきたように、本学の使命・目的及び教育目的は、本学の特質である幼児教育者、保育者養成に特化されるものであるが、それらは、文部科学省の教員養成課程、厚生労働省の保育士養成課程の基本概念と方向性から大きな影響を受けるものでもある。よって今日的課題である、これからの幼児教育、保育そして何よりも出産・子育て支援という国家事業の大きな変革により本学の使命・目的、教育目的は少なからずの見直しを求められることも予想されることから、「変わるもの、変わるもののないもの」という変化への対応を適切に判断する機会を教授会において設ける。

#### 【エビデンス集・資料集】

【資料 1-3-1】 エビデンス集（資料編）F-2

福岡こども短期大学案内パンフレット

【資料 1-3-2】 エビデンス集（資料編）F-2

福岡こども短期大学案内パンフレット

【資料 1-3-3】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 1-3-4】 本学 HP（情報公開）（資料 1-3-1 と同じ）

【資料 1-3-5】 エビデンス集（資料編）F-6

事業計画書「経営・学校運営 5 か年計画」

【資料 1-3-6】 本学 HP（情報公開）（資料 1-3-1 と同じ）

【資料 1-3-7】 エビデンス集（資料編）F-3 福岡こども短期大学学則

【資料 1-3-8】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 1-3-9】 エビデンス集（資料編）F-9 法人及び短期大学の規定一覧

## 基準Ⅱ 学修と教授

## 2-1 学生の受け入れ

### 《2-1の視点》

#### 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

#### 2-1-② 入学者受け入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

#### 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

### (1) 基準項目2-1の自己判定

基準項目2-1を満たしている

### (2) 2-1の自己判定の理由(事実の説明及び自己評価)

#### 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知

本学では、文部科学省省令による3つのポリシーの公表の義務化以前より、ディプロマ及びカリキュラムポリシーと整合性のあるアドミッションポリシーを定め、ホームページの情報公開において、公表している。【資料2-1-1】

#### 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫

本学のアドミッションポリシーでは、本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」の基づく、入学者の第一義体である個性や得意分野を活かしながら総合的な技能、知識、能力を形成する教育目的のため、また総合的人間力を有し保育、こども教育への強い関心、素養そして意志を評価する。調査書等での評価点のみならず、本学独自の選考のための事前提出物である「保育者カード」による評価、またそれに基づいた面接、子どもの歌(童謡等)・子どもの遊びへの関心度などをチェックする入学者選抜を実施し、複数の専任教員による評価付け、すべての専任教員による選抜評価の判断確認、そして教授会による合否判定という公正かつ妥当な選抜の工夫を設け、その内容および運用の見直しは、本学のすべての専任教員によって毎年行っている。

【資料2-1-2】【資料2-1-3】

#### 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

本学の収容定員は、平成22年より1学年350名ずつによる700名となっている。そして今年に至るまでエビデンスが示す入学者数で推移している。いまだに定員割れの状態は続いているが、数字が示す通り、入学者の増加している。これは、全国初めての短期大学2年間という学修期間に、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・養護教諭二種免許状という3つの免許、資格が取得できる教育課程の整備、専任教員自らの広報活動の強化、高校内での授業要請への積極的な対応、高校生、高校教員の本学訪問の機会増加、さらに在学生の幼児教育・保育分野の専門職としての100%就職への

支援と働きかけなどに代表される、全学あげての入学者確保の効果と考える。

【資料 2-1-4】

### **(3) 2-1の改善・向上方策 (将来計画)**

より安定かつ適切な学校経営と運用のため、平成 28 年度に文部科学省、厚生労働省(出先機関として福岡県庁)に、1 学年 50 名ずつ計 100 名の収容定員減の申請を行う。

【エビデンス集・資料集】

【資料 2-1-1】 本学 HP (情報公開)

【資料 2-1-2】 エビデンス集 (資料編) F-4 学生募集要項

【資料 2-1-3】 保育者カード

【資料 2-1-4】 エビデンス集 (データ編) 表 2-1

学科別の志願者数、合格者数、入学者数の推移(過去 5 年間)

## **2-2 教育課程及び教授方法**

### **《2-2の視点》**

#### **2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化**

#### **2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発**

##### **(1) 2-2の自己判定**

基準項目 2-2 を満たしている。

##### **(2) 2-2の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)**

#### **2-2-① 教育目的を踏まえた教育課程編成方針の明確化**

本学の学則第 1 条に目的及び使命として、本学の建学の精神「個性の伸展による人生練磨」を掲げ、「教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、国家及び社会の形成者として豊かな人格の完成を目指すとともに、本学建学の精神に則り、個性の伸展を図りつつ幼児教育に関する教授研究を行い、心身健全で、知的、道徳的及び創造的能力をもって幼児保育にあたる有為な人材を育成し、さらに学術の深化、文化の向上に貢献することを使命とする。」としている。【資料 2-2-1】

この教育目的をもとに立てたカリキュラムポリシーに基づき、教育課程を設定している。これらはいずれも、本学ホームページ「情報公開」に掲載し明示している。

本学の教育課程はこども教育学科の1課程であり、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事任用資格を取得するために「教育職員免許法及び施行規則」「児童福祉法施行規則第三十九条の二第一項第三号の指定保育士養成施設の修業科目及び単位数並びに履修方法」に基づいて編成している。授業科目は、「教養科目」と「専門科目」に分類し、体系的編成を行っており、教育目的を達成するため修得を義務付ける「必修科目」、指定された開設科目の中から自由に選択し履修可能な「選択科目」がある。【資料 2-2-2】【資料 2-2-3】【資料 2-2-4】【資料 2-2-5】  
【資料 2-2-6】

## 2-2-② 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発

### 1) 教育課程編成方針に沿った教育課程の体系的編成

本学は幼稚園教諭、保育士の養成校であり、平成22年度より養護教諭の養成も行っており、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状、保育士資格、社会福祉主事任用資格を取得するための科目内容は、教育職員免許法、児童福祉法、社会福祉関連法規により定められており、それらに従いながら本学の特色を反映した構成としている。また、本学のカリキュラムポリシーに沿った教育課程の体系的編成を行い、教授方法の工夫・開発を行っている。

授業科目は学則10条、履修の方法は学則第13条に示しており、その目的と内容、教育効果を考慮して、講義、演習、実習、実技の4つの授業形態としている。また、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得する場合は、「第10条別表第1に定める必修科目のほか履修規程に従うものとする。」また、養護教諭二種免許状を加えて取得する場合は、「別表第2に定める科目のほか履修規程に従うものとする。」と示している。単位の算定は、学則第11条に「(1) 講義及び演習については、その授業に応じて、15時間から30時間までの範囲をもって1単位とする。(2) 実習及び実技については、その授業に応じて、30時間から45時間までの範囲をもって1単位とする。」と示している。履修登録単位数の上限は、履修規程に示している。【資料 2-2-7】【資料 2-2-8】  
【資料 2-2-9】【資料 2-2-10】

卒業に必要な単位数は、「必修科目」16単位、「選択科目」46単位以上で、合計62単位以上である。また履修規程 別表「履修科目一覧表」に、其々の免許・資格を取得するための単位数や、選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、開講している授業科目を明示し、履修区分に応じる必修科目と選択科目を示している。

本学では、其々の免許や資格取得をするために定められた科目を履修しなければならないことから、必修科目の割合が高くなっている。しかし、一部の教科目「養護教諭二種免許状を取得するための科目」、「幼児教育研究Ⅰ・Ⅱ」の研究会選択、「保育方法論」のコース選択、「レクリエーション講義・実技」、「在宅保育」においては、学生の選択の自由を保障している。「幼児教育研究Ⅰ・Ⅱ」は、学生要覧 履修規程付紙1「幼児教育研究Ⅰ・Ⅱ履修要領」において選択できる研究会名を、「保育方法論」は、学生要覧 履修規程付紙2「保育方法論履修要領」において選択できるコース名を其々

明示している。【資料 2-2-11】

上記に示した免許・資格以外に、教育課程に従って履修することにより取得できる免許・資格は、レクリエーション・インストラクター資格、認定ベビーシッター資格（在宅保育の単位取得と保育士資格取得を前提とする）がある。また、幼児教育研究会活動を通して取得できる資格（関係団体の内容受講及び実技発表による資格取得）は、日本折紙協会初級講師、バルーン初級認定証、幼児安全法支援員、日本マーチングバンドバトントワリング協会公認指導者ライセンス、裏千家茶道免許状（初級・中級）及び裏千家茶道文化検定、草月流免許状、財団法人日本習字教育財団発行師範免許状、こども環境管理士 2 級、色彩検定及び美術検定、社会福祉法人全国手話検定がある。更に集中講義を受講することにより取得できる資格（受講後、関係団体の筆記試験合格にて資格取得）として、おもちゃインストラクターがある。これらの免許・資格は、福岡こども短期大学学校案内（パンフレット）、本学ホームページ、学生要覧に記載している。【資料 2-2-12】【資料 2-2-13】【資料 2-2-14】【資料 2-2-15】【資料 2-2-16】

免許・資格に係る実習を履修する際には、実習委員会を開催し、実習への参加や評価判定等を行っている。本学には各学生の出身地区毎に地区アドバイザーが配置され、学生の実習を支援している。学生の学習状況の確認、履修科目の状況を把握し、学生の次への実習に向けたアドバイスなども行っている。また、地区アドバイザーと実習担当職員は情報交換をし、効果的な学習の達成を図っている。【資料 2-2-17】

【資料 2-2-18】

## 2) 教授方法の工夫・開発、教育方法改善のための体制の整備・運用

・「幼児教育研究Ⅰ」は、卒業、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、「幼児教育研究Ⅱ」は、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格の「必修科目」である。本学のカリキュラムポリシーに、「学生一人一人の個性の伸展を図り、専門知識や技術・技能の習得に留まらず、社会人として必要なマナーを身に付け、保育者としての自覚・責任を持って行動する力を養う。また、地域に開かれた短期大学として、様々な行事に参加し、貢献する。」と示していることを受け、本学の公開講座「こども日を祝う集い」、「七夕まつり」、「こどもフェスティバル」や附属園の行事、地域貢献等において、各研究会の学生が年間を通して学修成果を発揮する機会や場を設けており、大きな成果をあげている。

【資料 2-2-19】

・「保育方法論」は、前期末と後期末に、各コースの授業学修成果を確認する場として、学生が立てた指導案を基に附属園の幼児を対象に指導を行う研究保育を実施している。この研究保育を実施するにあたり、「保育方法論」授業担当教員 3 名が附属園との調整を行い、全担当教員と情報交換する場を設け、研究保育をスムーズに行えるように進めている。各コースの学生は、附属園の先生と事前打ち合わせを行い、当日の指導に臨み、成果をあげている。【資料 2-2-20】

・「保育・教職実践演習（保育・幼稚園）」、「教職実践演習（養護）」では、部外講師を招き、保育者や養護教諭から講話をしていただく機会を設けている。学生は、これらのお話を受けて、各コースに分かれ、グループ内で課題解決のためのディスカッション

を行い、学生自身が知識を広げたり深めたりしている。各コースを担当する教員は、これらの授業で使用する冊子を作成し、スムーズに授業を展開できるように工夫している。【資料 2-2-21】

・「子ども音楽遊びⅡ」では、学生の到達度別クラスを設け、本学独自に作成した難易度を示した「Piano Level Check Assessment」（グレード表）を使用して、レベル別に教科書『やさしく弾ける童謡集』を用いて、ピアノ伴奏法の授業を展開している。特に初心者の学生に対しては、本学独自の簡単に弾ける伴奏法が載っている教科書『もっとやさしく弾ける童謡集』を作成し、指導法を工夫している。【資料 2-2-22】

【資料 2-2-23】【資料 2-2-24】

・本学では前期・後期授業終了時において、授業評価アンケートを実施し、其々の授業担当者にアンケート結果を伝えている。各教員は授業評価結果を真摯に受け止め、次年度の授業に向けて改善点や工夫等を示している。【資料 2-2-25】【資料 2-2-26】

### (3) 2-2 の改善・向上方策（将来計画）

平成 22 年度より養護教諭二種免許状に関する認可を受け、「教育職員免許法及び施行規則」に基づいて教育課程を見直し、養護教諭二種免許状取得のための選択授業を開設し、年々、希望者の増加が見られる。2 年間で養護教諭二種免許状、幼稚園二種免許状、保育士資格、社会福祉主事任用資格を合わせて取得する学生はとても過密な履修状況であるが、将来、養護教諭としての知識や技術を取得した上で、幼稚園教諭や保育士になる学生が多いことから、学生が履修しやすい状況を検討していくことが必要であろう。

#### 【エビデンス集・資料集】

【資料 2-2-1】 エビデンス集（資料編）F-3 本学 HP（情報公開）

【資料 2-2-2】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 2-2-3】 エビデンス集（データ編）表 2-5 授業科目の概要

【資料 2-2-4】 本学 HP（情報公開）

【資料 2-2-5】 教員職員免許関係法規集「教育職員免許法及び施行規則」

【資料 2-2-6】 児童福祉六法「児童福祉法施行規則第 39 条の 2 第 1 号第 3 号  
指定保育士養成施設の修業科目及び単位数並びに履修方法」

【資料 2-2-7】 エビデンス集（資料編）F-3 本学 HP（情報公開）

【資料 2-2-8】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 2-2-9】 エビデンス集（データ編）表 2-5 授業科目の概要

【資料 2-2-10】 エビデンス集（データ編）表 2-8 年次別履修科目登録単位数の  
上限と進級、卒業（修了）要件（単位数）

【資料 2-2-11】 エビデンス集（資料編）F-9  
法人及び短期大学の規程一覧（規程集目次など）

【資料 2-2-12】 エビデンス集（資料編）F-2

福岡こども短期大学案内パンフレット

- 【資料 2-2-13】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧
- 【資料 2-2-14】 レクリエーション・インストラクター課程認定関係書類
- 【資料 2-2-15】 認定ベビーシッター資格課程認定関係書類
- 【資料 2-2-16】 実習委員会議事録
- 【資料 2-2-17】 本学 HP（取得できる資格）
- 【資料 2-2-18】 地区アドバイザー配置と役割
- 【資料 2-2-19】 エビデンス集（データ編）表 2-14  
学生の課外活動への支援状況（前年度実績）
- 【資料 2-2-20】 「保育方法論」担当打ち合わせ内容
- 【資料 2-2-21】 「保育・教職実践演習（保育・幼稚園）」  
「教職実践演習（養護）」打ち合わせ資料
- 【資料 2-2-22】 「やさしく弾ける童謡集」
- 【資料 2-2-23】 「もっとやさしく弾ける童謡集」
- 【資料 2-2-24】 「Piano Level Check Assessment」（ピアノグレード表）
- 【資料 2-2-25】 授業評価アンケート
- 【資料 2-2-26】 授業評価アンケート結果集計表

## 2-3 学修及び授業の支援

### 《2-3の視点》

#### 2-3-① 教員と職員の協働並びに TA( Teaching Assistant )等の活用による学修支援及び授業支援の充実

##### (1) 2-3の自己判定

基準項目 2-3 を満たしている。

##### (2) 2-3の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 2-3-① 教員と職員の協働並びに TA( Teaching Assistant )等の活用による学修支援及び授業支援の充実

##### 1) 教員と職員の協働による学修支援体制

本学の支援体制は、図 2-3-① に示すように構成されている。

##### A) クラス担任制と地区アドバイザー制

本学には、学生が安心して 2 年間学習に取り組み、学生生活を有意義に過ごすことができるよう、クラス担任制と地区アドバイザー制を設け、担当教員が学生とのコミ

コミュニケーションを図りながら学生の相談に乗ったり、適切な指導や助言を行ったりしている。

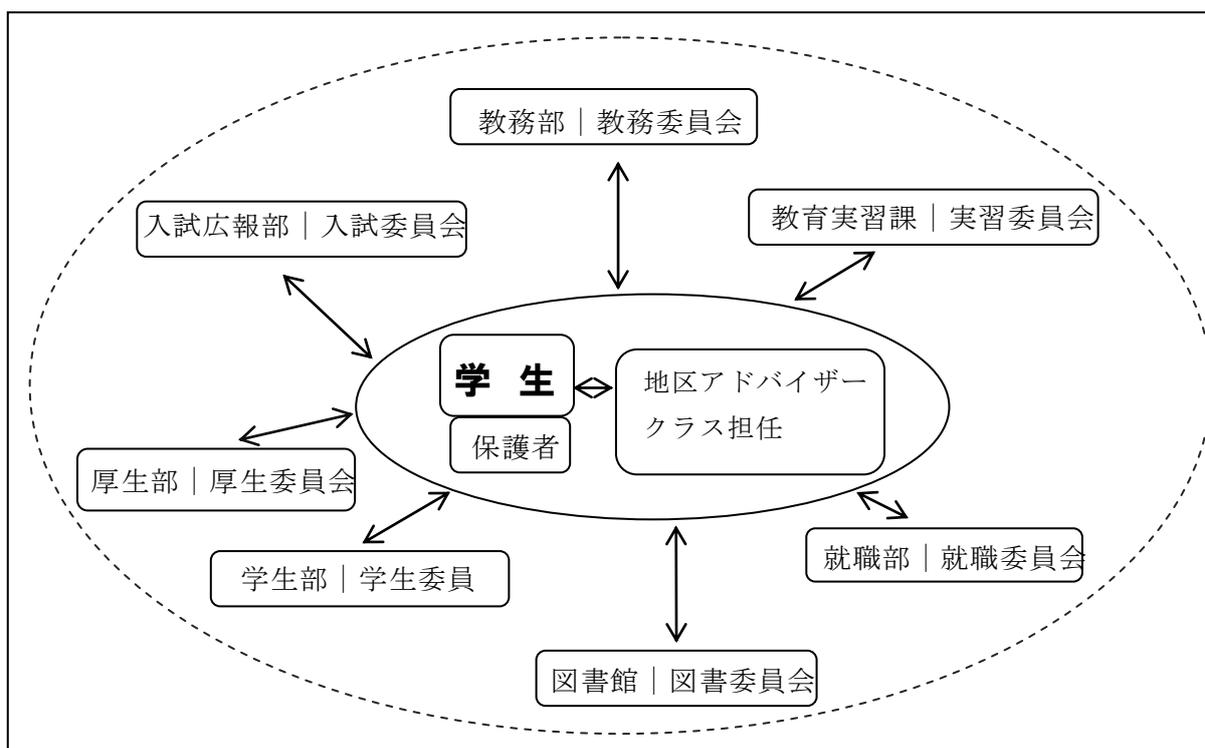


図 2-3-① 学修支援体制の図式

クラス担任制は各クラスに2名の専任教員を配置し、また、地区アドバイザー制は学生の出身県や出身地区ごとに教員を配置して、其々の学生を支援するクラス担任と地区アドバイザーは連携を図りながら、学生の入学から卒業までの支援をしている。

主な支援事項は、学生生活に関する事項、修学に関する事項、学籍に関する事項、そ

その他の相談事項であり、入学式後には、保護者にもクラス担任及び地区アドバイザーを紹介する機会を設けている。

入学式終了後に行うフレンドシップセミナーや、秋に行うクラスマッチでは、クラスの学生同士やクラス担任との交流を図る良い機会となっている。さらに、毎週月曜日V講時目にはクラスホームルームや地区ホームルームが実施され、各担当教員とは密に関わる機会となっている。【資料 2-3-1】【資料 2-3-2】【資料 2-3-3】

#### B) 各委員会と各部(課)職員との協働

教務部及び教務委員会の連携については、オリエンテーション時における履修指導及び履修届、出席状況の把握、単位取得や各種免許状資格申請手続き、授業評価アンケートの実施、公開講座の実施等、職員と教員が協働して行っている。【資料 2-3-4】【資料 2-3-5】【資料 2-3-6】【資料 2-3-7】【資料 2-3-8】

学生部及び学生委員会の連携については、入学時に行われるオリエンテーションに

おける新入生への支援や、学内施設の案内、また、通学に関する支援、各種証明書の発行を行っている。さらに、学生への様々な情報提供を学生部掲示板に掲示している。

また、保健室には養護教諭、カウンセリング室には臨床心理士を配置し学生の既往症の把握や応急処置、健康相談も行っているため、学生に対する配慮や教員による適切な対応がなされている。

課外活動において、全学生の所属する「幼児教育研究会」に本学附属園をはじめ、近郊の保育所、幼稚園、児童養護施設、特別支援学校等からの支援依頼は学生部が窓口となり、指導教員へ伝達するとともに円滑に活動が行われるように支援している。

【資料 2-3-9】【資料 2-3-10】【資料 2-3-11】

就職部及び就職委員会では、就職に向けた相談窓口を常設し、就職に関する情報提供をしている他、就職ガイダンス・専任教員による地区アドバイザーの 3 つを主な柱として、学生らの就職活動が円滑に進むよう教員と職員が協働し、就職支援にあたっている。

就職部では相談窓口を設け、専門スタッフ（職員）が求人票等を管理している。求人票が新たに窓口が届いた際は、地区アドバイザーに連絡を取り、地区アドバイザーから学生への伝達を依頼するなど、細やかな支援がなされている。

就職ガイダンスにおいては、学年全体を集めた講義形式のガイダンスと、地区アドバイザー別に学生らが分かれ、実践や指導を行うガイダンスを併せて行っている。講義形式のガイダンスでは、就職部専門スタッフを中心として、「履歴書の書き方」・「求人に対する応募要領」などを行う他、幼稚園連盟・保育協会主催による、園長や卒業生を招いた就職説明会を毎年開催している。地区アドバイザー別の就職ガイダンスでは、「履歴書の書き方の確認」・「論作文の添削」・「面接指導」など、一人ひとりの学生のニーズに応じた指導を行っている。

地区アドバイザー制度では、上述した支援等を協働で行う他に、学生との面談や、保護者を含めた三者懇談での結果を就職部に報告し、就職が円滑に進むよう組織的に支援にあたっている。【資料 2-3-12】【資料 2-3-13】

### C) 本学の公開講座における支援体制

本学は保育者を育成する短期大学であるということもあり、日本のこどもにまつわる伝統行事「端午」、「七夕」を取り上げ、本学の公開講座「こどもの日を祝う集い」「七夕まつり」として地域に発信している。また、本学の建学の精神「個性の伸展の人生練磨」を具現化した幼児教育研究Ⅰ・Ⅱの授業成果を発表する場として「こどもフェスティバル」を開催している。これらの公開講座は、全教職員の役割分担を示した組織表に従って全教職員が協力し、学生を支援しながら進めている。其々の行事においては大勢の参加があり、学生にとっても達成感を味わう機会となっている。幼児教育研究会のボランティア活動支援では伺書と活動報告書を提出している。また、各幼児教育研究会では、1年間の研究活動を「幼児教育研究誌」にまとめる支援を行っている。

【資料 2-3-14】【資料 2-3-15】

## 2) 学生支援における学生への周知方法

### A) 入学前教育

新入生の入学前教育として、保育者に求められるピアノ伴奏技術の修得を、少しでも早い時期から行えるように、本学のピアノの授業で使用している教科書『やさしく弾ける童謡集』を送付し、練習を促している。【資料 2-3-16】

### B) オリエンテーション

入学後や進級時において、オリエンテーションを実施している。入学時にはクラス担任立会いのもと、教務部より履修指導を行い、学生が入学から卒業までの履修目標を設定し、学生自身が履修した授業を受けられるように支援している。試験結果発表の時は教務委員が学生の対応や相談にのっている。また、進級時のオリエンテーションにおいては、選択科目を受講する学生や再履修科目を含む学生もいることから、クラス担任や教務委員が細かに相談に乗りながら、履修届けが行えるように支援している。【資料 2-3-17】【資料 2-3-18】

### C) 学修支援及び授業支援の充実

本学には教員の教育活動を支援するために TA( Teaching Assistant) を配置していないが、教員同士で連携をとり、資質を向上させながら、お互いに教育活動を支援している。学生に対しては、オフィスアワーという言葉は使用していないが、教員の空き時間や放課後を利用し、習熟度が遅い学生に対して支援を行っている。それぞれの授業を通して、対象学生に対しては周知している。具体的な授業支援の内容は以下の通りである。

- ・ 幼児音楽のピアノの技術を習得する授業においては、個人レッスン形式で支援を行っている。
- ・ 幼児体育の授業では、実技試験に合格できない学生を対象に支援している。
- ・ 保育関係の授業では、実習に関する質問や相談、実習日誌や指導案記述に関する支援を行っている。
- ・ 養護関係の授業では、免許取得に養護実習必修単位の修得が必要不可欠であるため、「養護教諭二種免許状ガイダンスシート」を用いて学生の学修状況や自己評価を養護担当教員および地区アドバイザーで確認している。具体的には 1 年次前期の中間時点に到達度テストを行い、養護実習担当教員および地区アドバイザーから学習到達度状況についてのフィードバックを行い、習熟度の低い学生については空き時間を利用して補講や課題を実施し学修を支援している。また、養護実習前後には、事前指導として実習校との連絡調整や保健指導案・ほけんだより作成の指導、事後指導としては実習評価の振返りを行っている。このように、2 年間を通して免許取得に対して学生が意欲的に取り組むことができる体制を整備している。【資料 2-3-19】

学生の出席状況については、キャンパスプラン学生 Web サービスを運用しており、学生および教職員はいつでも確認できる状況にあるが、毎月出席状況表を配布することで、地区アドバイザーとクラス担任が状況を把握、休みがちな学生に注意喚起をおこなうことができる。この決め細やかな支援体制が、退学防止に繋がっていると考え

られる。【資料 2-3-20】

実習では、事前・事後指導や見学実習の他さまざまな事務手続き、書類の整理が必要となる。事前指導は実習オリエンテーションの名称で、実習の手引き【レッツスタート】を用い、1年次前期に4回実施している。その際、学生と共に地区アドバイザーも同席して指導内容を確認し、アドバイスをを行っている。実習先の選定や事務手続きが必要な書類については、地区アドバイザーと相談し承認を得ながら進めている。事務手続きの書類は、実習課の担当者に取りまとめ、不備があれば地区アドバイザーを通し学生に再提出を求める等、細やかな支援をしている。【資料 2-3-21】

【資料 2-3-22】

就職においては、1年後期より就職ガイダンスを実施し、履歴書の書き方や求人票の見方、就職への取り組み等について支援している。就職部に届いた求人票は、即日、地区アドバイザーに知らされ、受験希望者へ連絡を行っている。また円滑に就職が決まるように、論作文指導や面接指導等も支援している。

### 3) 休学者・退学者・留年者を減少させるための方策

これらの学生の対応については、地区アドバイザーとクラス担任が学生部と協働し、学生及び保護者と複数回に渡り学業継続の面談を重ねている。また、連絡や面談をした場合、学生部に記録を残し管理している。本学のシステムである一人の学生を地区アドバイザーとクラス担任という立場での教員の関わりにより、学生の意思や方向性を見失うことなく支援していくことが退学・除籍・留年をより減少させる一助になっている。平成 27 年度は 264 名入学し中途退学者が 25 名であった。【資料 2-3-23】

## (3) 2-3 の改善・向上方策（将来計画）

特に問題ないが、学修支援、授業支援では、今後ともクラス担任や地区アドバイザーが気軽に活用できるような雰囲気作りと更なる工夫を考えていく。

### 【エビデンス集・資料集】

- 【資料 2-3-1】 各行事の組織表
- 【資料 2-3-2】 各クラス担任、地区アドバイザーの表
- 【資料 2-3-3】 時間割
- 【資料 2-3-4】 出席状況表
- 【資料 2-3-5】 各種免許状・資格申請書類
- 【資料 2-3-6】 授業評価アンケート
- 【資料 2-3-7】 就職のしおり
- 【資料 2-3-8】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧
- 【資料 2-3-9】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧
- 【資料 2-3-10】 エビデンス集（データ編）表-12  
学生相談室、医務室等の利用状況

- 【資料 2-3-11】 エビデンス集（データ編）表 2-14  
学生の課外活動への支援状況（前年度実績）
- 【資料 2-3-12】 就職のしおり
- 【資料 2-3-13】 就職ガイダンス 全 8 回配布資料
- 【資料 2-3-14】 各行事の組織表
- 【資料 2-3-15】 幼児教育研究誌
- 【資料 2-3-16】 「やさしく弾ける童謡集」
- 【資料 2-3-17】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧
- 【資料 2-3-18】 履修届け用紙
- 【資料 2-3-19】 養護教諭二種免許状ガイダンスシート
- 【資料 2-3-20】 キャンパスプラン学生 Web サービス資料
- 【資料 2-3-21】 実習の手引き「レッツスタート」
- 【資料 2-3-22】 実習先配当表
- 【資料 2-3-23】 エビデンス集（データ編）表 2-4  
学科別の退学者数の推移（過去 3 年間）

## 2-4 単位認定、卒業・修了認定等

### 《2-4の視点》

#### 2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

##### (1) 2-4の自己判定

基準項目 2-4 を満たしている。

##### (2) 2-4の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 2-4-① 単位認定、進級及び卒業・修了認定等の基準の明確化とその厳正な適用

単位認定については、本学学則第 15 条に「各科目修了の認定は、試験又はその他適当な方法によるものとする」と定めており、また第 11 条に「授業科目の単位算定は、次の基準による。(1)講義及び演習については、その授業に応じて、15 時間から 30 時間までの範囲をもって 1 単位とする。(2)実習及び実技については、その授業に応じて、30 時間から 45 時間までの範囲をもって 1 単位とする」と明記している。

授業への出席管理は、授業毎に学生署名のマークシート式出席表を配布・回収し、速やかに本学教職員によって読み取り、キャンパスプランを用いて、一括管理している。このシステムによって、授業担当教員が必要な授業回数を確実にしていることも教務部で確認し行われている。【資料 2-4-1】

加えて、出欠席状況を記載したプリントを毎月1回、年間計8回にわたって全学生はそれぞれが所属する各地区アドバイザー又はクラス担任の教員より配布を受けており、学生・教員相互で出欠席管理・確認が確実になされている。【資料2-4-2】

次に各授業科目の成績評価については、シラバスの「評価方法」欄に記載した通りに成績が出されており、その方法は、本学履修規定第11条に「筆記試験、口述試験、レポート、論文、受講態度などにより評価するものとする」と定められ、多角的な成績評価が可能になっている。成績評価は秀・優・良・可・不可によって評価されており、各授業担当者間で不均等性がないように分野毎に細かな成績基準を設け点数化している。【資料2-4-3】

【資料2-4-3】

評価	秀	優	良	可	不可
点数	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	59点以下

単位が認定されなかった科目については、各科目の授業担当教員ならびに該当学生が所属する各地区アドバイザーに、教務部より速やかに連絡が行われる。認定されなかった理由や、卒業指導が必要な場合は面談を行い、授業担当者との間で状況確認がなされる体制となっている。

以上のような経過の後に、授業担当者が成績評価を集計し、「本学学則」第23条にある「本学に2年以上在学し、履修規程に定める62単位以上を修得した者」に対して、単位が認定され、教授会の中で諮られ、卒業の認定が、学長決済のもと、なされる。【資料2-4-4】【資料2-4-5】

**(3) 2-4の改善・向上方策（将来計画）**

特に問題はなく、現状の体制を維持することができる。

【エビデンス集・資料集】

- 【資料2-4-1】 出席票（マークシート用紙）
- 【資料2-4-2】 出席不良学生への連絡（地区アドバイザー）
- 【資料2-4-3】 エビデンス集（データ編）表2-6 成績評価基準
- 【資料2-4-4】 エビデンス集（資料編）F-3 福岡こども短期大学学則
- 【資料2-4-5】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

## 2-5 キャリアガイダンス

### 《2-5の視点》

#### 2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

##### (1) 2-5の自己判定

基準項目2-5を満たしている。

##### (2) 2-5の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 2-5-① 教育課程内外を通じての社会的・職業的自立に関する指導のための体制の整備

#### 【就職支援（キャリアガイダンス）に関する教育課程上及びその他の教育としての取り組み状況】

本学では学生への積極的な就職支援を行い、開学以来、希望者の100%が就職を達成している。その中の大多数が、保育・福祉・教育等の専門職に就き活躍している。今後も学生一人ひとりのニーズを聴き、個別に対応を行う中で就職に対する満足度を高めていくことを目標としている。【資料2-5-1】【資料2-5-2】

本学は卒業と同時に、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格、併せて、養護教諭二種免許状を取得できるようカリキュラムを編成している。心と身体・健康の専門家として、カウンセリングや看護の知識を備えた幼稚園教諭・保育士育成を目指し、養護教諭取得のカリキュラムを編成している。【資料2-5-3】

本学での就職支援は、就職部に相談窓口を常設し、就職に関する情報提供をしている他、就職ガイダンス・地区アドバイザーの3つを主な柱として就職支援にあたっている。

##### A) 就職部窓口での就職相談・情報提供

就職部では相談窓口を設け専門スタッフを配置し、学生らへの求人情報の提供・相談ができるよう支援している。【資料2-5-4】

窓口では、各県、各地区別に、幼稚園・保育所・社会福祉施設・企業一般にファイリングし、①求人票・②過去の就職試験課題（登録試験・教員採用試験 含）・③幼稚園、保育所、社会福祉施設、企業一般等のパンフレット、等の資料を常設開示している。学生が就職を希望する地区、及び業種を閲覧できるよう配慮している。

##### B) 就職ガイダンス

就職ガイダンスは、1年次の11月から開始し、就職に向け準備を進められるよう促している。1年次においては「卒業後の進路選択」・「履歴書の書き方」を実施している。

2年次には、「求人に対する応募要領」・「内定までの心構え」・「面接試験のポイント」・「作文試験対策」・「就職内定者に対する留意事項」等を実施している。【資料 2-5-5】  
【資料 2-5-6】

さらに、幼稚園連盟・保育協会主催による、園長や卒業生を招いた就職説明会を毎年開催している。学生たちは保育現場の実体験を聞く機会となり、進路選択の一助となっている。【資料 2-5-7】【資料 2-5-8】

その他、教養科目『礼法マナー』の講義内でも就職に向けた指導を実施している。

#### C) 地区アドバイザー

地区アドバイザー制度では、教員が各県別に学生を担当し、入学から実習、学校生活、就職までをサポートしている。具体的な就職支援内容としては、担当学生の就職先選択から、就職試験対策、内定後の研修相談、就職後の訪問サポートに至るまで、教員が個別に支援を行っている。併せて、各県ごとに三者懇談の機会を設け、保護者と就職に向けた意思疎通を図り、就職が円滑に進むよう配慮している。【資料 2-5-9】  
【資料 2-5-10】

また長期休暇を利用した保育所・社会福祉施設等への自主実習や、ボランティア、アルバイト等は、現場で積極的にこどもと関わることのできる主体的なキャリア教育と捉え、本学でもこうした活動への参加を促し、支援を行っている。

本学ではインターンシップとしての指導は行っていないが、それに変わる取り組みとして、学生が就職を希望する幼稚園・保育所等へ1日無いし2日間の自主実習の後、就職受験を検討する事を勧め、支援を行っている。

### 2-5-1 就職支援の取り組みに対する検証と評価

上記の就職支援の取り組みにおいて、以下の検証を行い、実施内容の見直し・改善を図っている。

#### A) 就職支援アンケート

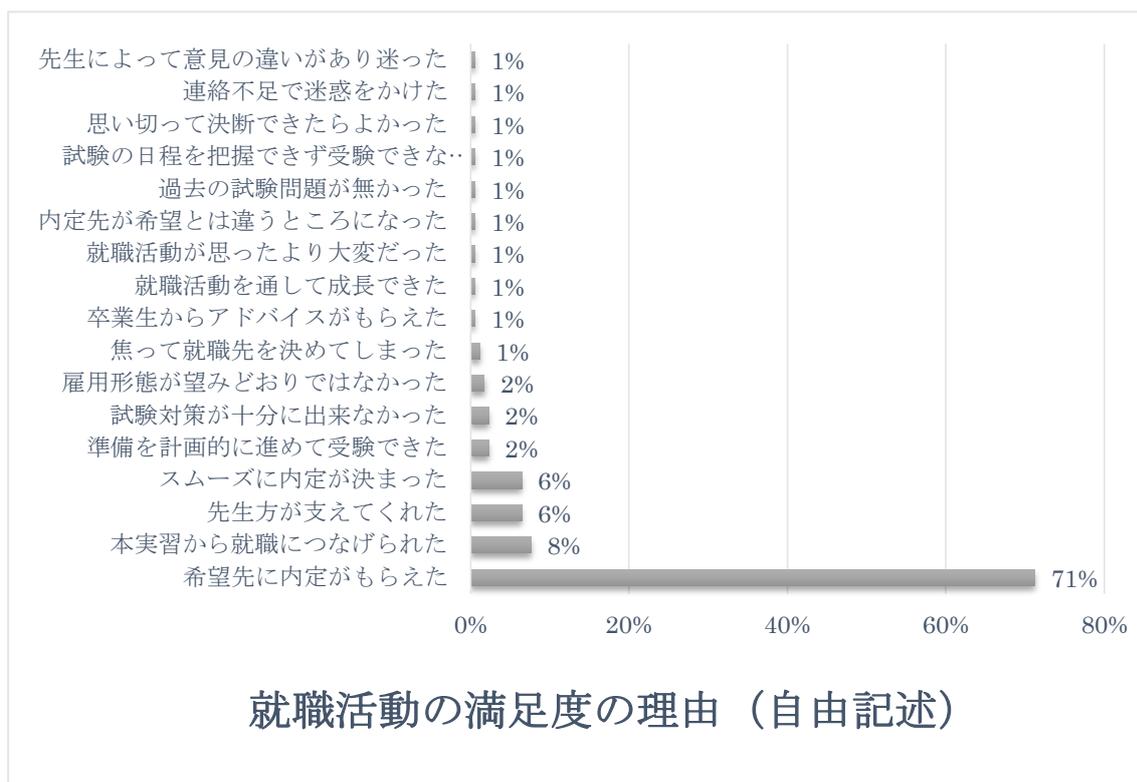
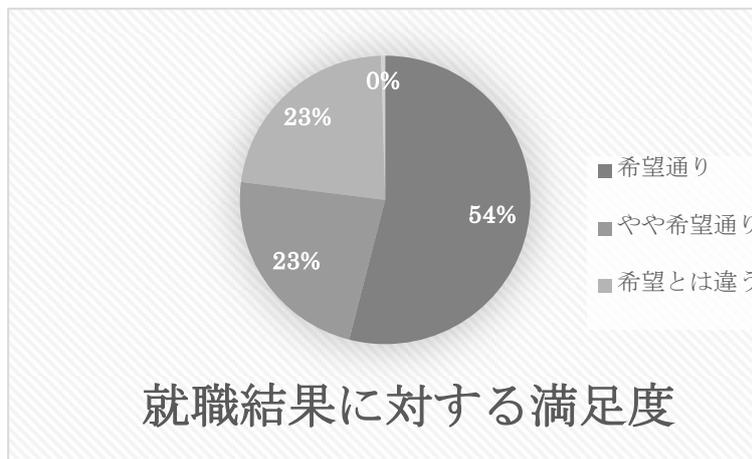
平成27年度より、就職内定者を対象に、学内での就職支援に対するアンケート調査を行い、今後の就職支援改善に役立てている。また卒業学年にこのアンケート結果を提示し、就職活動の参考資料として役立てている。【資料 2-5-11】

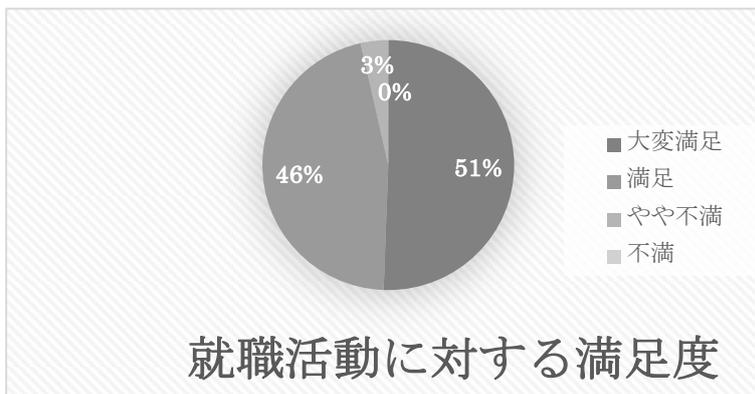
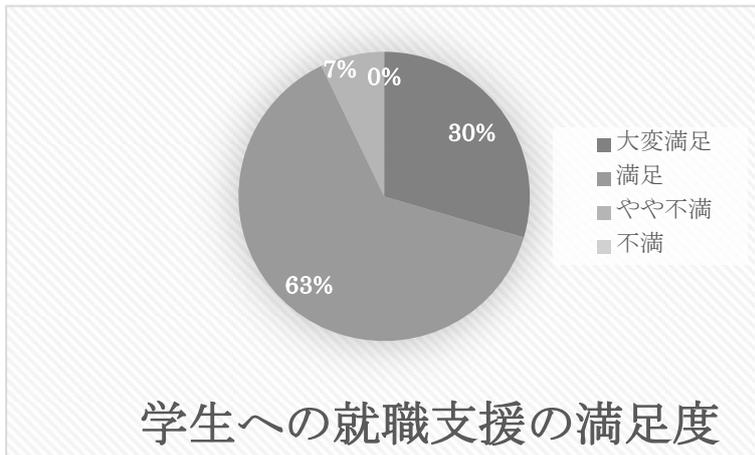
平成27年度実施の就職支援アンケートでは、以下のような結果が見られた。就職結果に対しての満足度は、77%の学生が希望した園（社会福祉施設含）に就職できた（希望通り・やや希望どおり）と答えた。しかし、23%の学生は希望とは違う園への就職になったと回答している。さらに就職活動に対する満足度回答の理由を自由記述形式で記述を求めた回答からは、次のような結果が得られた。類似した回答をカテゴリー化し、その傾向を見たところ、最も多い回答が「希望先に内定がもらえた」、続いて、「本実習から就職に繋げることができた」、「先生方が支えてくれた」などが見られた。また、少ない回答ではあったが、「試験対策が十分にできなかった」、「内定先が希望とはちがうところになった」、「焦って就職先を決めてしまった」などの回答が

あった。これらの結果から、概ね満足に行く就職ができて一方、早期に内定先を決めたいという焦りから希望と異なる結果となった学生が居ることが明らかとなった。

学校側から学生への就職支援についての満足度は、93%の学生が満足している（大変満足・満足）と回答しており、また、就職活動全体に対しての満足度も、97%の学生が満足（大変満足・満足）と回答している。従って、全体的に充実した就職活動となり得ていることが明らかとなった。

以上のことから、本学の就職支援は、地区アドバイザーを中心とした支援が、学生の満足に行く就職に確実に繋がっていると見えよう。しかしながら、就職内定を急ぐ傾向等も見られることから、今後の就職支援の時期や、内容等を再考していく必要がある事が示唆された。





## B) 就職先アンケート

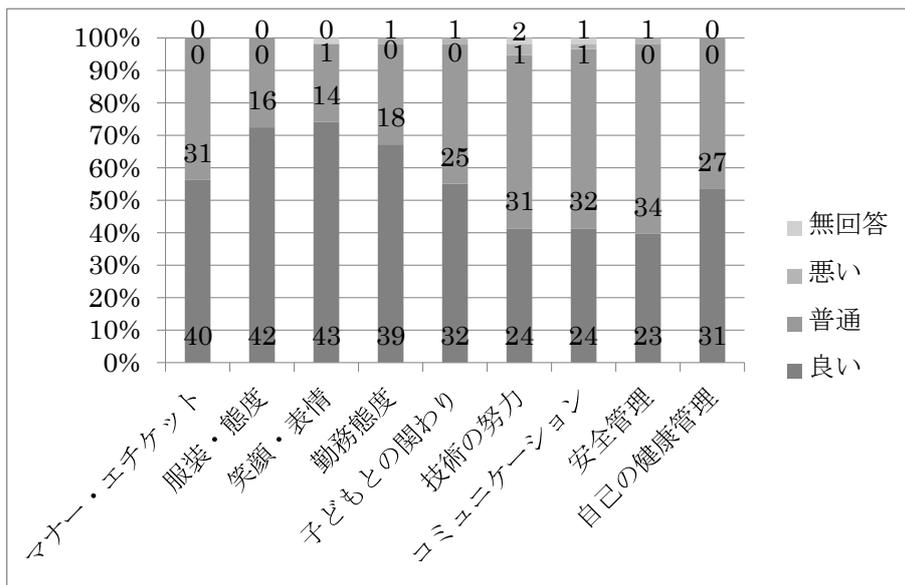
本学卒業生の就職先（幼稚園・保育園・社会福祉施設）を対象として、着任して1年経過後に質問紙を発送し、「本学卒業生に対する評価」についての調査を行っている。この調査結果については、教職員で情報を共有し、教養・専門教育にフィードバックしている。【資料 2-5-11】

平成25年度卒業学生の就職先アンケート（平成27年4月実施）では、「笑顔・表情」が最も“良い”と回答されており（43%）、続いて「服装・態度」（42%）、「マナー・エチケット」（40%）であった。

回答の中で“悪い”と回答された項目は、3項目に留まり、いずれも1%以下と非常にわずかであった。

この結果は平成26年度4月に実施したアンケート結果と比較すると、本校の卒業生に見られる課題が概ね改善の傾向にある事が読み取れた。しかしながら自由記述の回答からは、「社会的スキルの欠如」や、「記録・記述能力不良」の訴えが見られた。

就職園からどのようなスキルを求められているのかを明確にし、学内での授業・支援等の改善に繋げるためには、現在のアンケート内容では不十分であると考えられた。今後アンケート内容を見直し、更なる課題の明確化を図ることを次年度の課題としていきたい。



H25 年度卒業生に対する就職先の評価

### H25 年度本学卒業生への就職先からの評価(自由記述・頻出項目抜粋)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育スキルが良好</li> <li>・保育者としての適性良好</li> <li>・責任感・勤務態度良好</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の不足</li> <li>・責任感や勤務態度不良</li> <li>・社会的スキル不足</li> <li>・記録・記述能力不良</li> </ul>
--	---

## 2-5-2 進学支援の内容

本学卒業後、より専門性を身に付けるために四年制大学への編入学や専攻科・専門学校への進学を希望する学生に対しては、就職部で情報提供（過去の試験課題・大学パンフレット等）を行っている。併せて地区アドバイザーを中心として、志望校の明確化、個別面談、試験対策、模擬面接等の指導を行っている。

### (3) 2-5の改善・向上方策

前述の取り組みを通して、学生の社会的、職業的自立に向けて、学生一人ひとりの希望や状況にあわせた支援の向上を図る必要がある。そのため、学生との個別面談の実施や、就職園・実習園との意見交換の機会をさらに密にし、就職支援の見直しと検討を行い、就職に対する満足度を高められる取り組みを実施する。

#### 【エビデンス集・資料集】

- 【資料 2-5-1】 エビデンス集（データ編） 表 2-11 卒業後の進路先の状況
- 【資料 2-5-2】 エビデンス集（データ編） 表 2-10 就職の状況

- 【資料 2-5-3】 学生要覧 p.7 「免許・資格等の種類」
- 【資料 2-5-4】 エビデンス集（データ編） 表 2-9 就職相談室の利用状
- 【資料 2-5-5】 就職のしおり
- 【資料 2-5-6】 就職ガイダンス 全 8 回配布資料
- 【資料 2-5-7】 幼稚園連盟主催 就職説明会
- 【資料 2-5-8】 保育協会主催 就職説明会
- 【資料 2-5-9】 学校 HP 本学の特徴  
<http://www.fukuoka-kodomo.ac.jp/feature/index.html>
- 【資料 2-5-10】 学校 HP 就職情報  
<http://www.fukuoka-kodomo.ac.jp/employmentinfo/index.html>
- 【資料 2-5-11】 就職支援アンケート
- 【資料 2-5-12】 就職先アンケート

## 2-6 教育目的の達成状況の評価とフィードバック

### 《2-6の視点》

- 2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発
- 2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

#### (1) 2-6の自己判定

基準項目 2-6 を満たしている。

#### (2) 2-6の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 2-6-① 教育目的の達成状況の点検・評価方法の工夫・開発

本学の教育目的「本学建学の精神に則り、個性の伸展を図りつつ幼児教育に関する教授研究を行い、心身健全で、知的、道徳的及び創造的能力をもって幼児保育にあたる有為な人材を育成し、さらに学術の深化、文化の向上に貢献すること」については、免許や資格の取得率と専門職への就職率の高さが目的達成の指標の一つになると考える。また本学では、学生一人ひとりが利用できるキャンパスプラン学生 Web サービスを運用している。キャンパスプラン学生 Web サービスでは、シラバスの閲覧、学生個人の単位の取得状況や履修状況、各授業への出席状況の確認が行えるようになっており、学生は自らの学びの状況・達成状況をいつでも確認することができる。一方、教職員も、学生一人ひとりの学修状況・学修成果を把握し、学生の指導に役立てることができている。【資料 2-6-1】【資料 2-6-2】

## 1) 免許・資格取得状況

本学のディプロマポリシーには、「こども教育学科のカリキュラムを履修し、専門知識をはじめ、保育技術や技能を修得し、社会人としての教養やマナーを身に付け、所定の単位を修得し、本学のディプロマポリシーを見たした者には卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。」さらに、「免許・資格を取得するための必要な単位を満たした者は、それぞれの免許・資格を授与する。」とある。【資料 2-6-3】

本学のディプロマポリシーに則り、免許・資格が与えられている。

幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・養護教諭二種免許状・社会福祉主事任用資格を取得する学生は 126 単位を修得、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・社会福祉主事任用資格を取得する学生は 88 単位を修得、保育士資格・社会福祉主事任用資格取得は 75 単位を修得、幼稚園教諭二種免許状・社会福祉主事任用資格取得は 62 単位を修得している。【資料 2-6-4】【資料 2-6-5】

平成 27 年度は、保育士資格取得者は 206 名 (95%)、幼稚園教諭二種免許状取得者 188 名 (87%)、社会福祉主事任用資格 219 名 (100%) ベビーシッター資格取得者 197 名 (91%)、養護教諭二種免許状取得者は 70 名 (58%) であった。二年間で免許・資格を併せて取得するための修得単位数は多く、学生は意欲を持って努力し、その成果が免許・資格の取得へと結び付いている。

養護教諭二種免許取得に関しては選択希望制を導入しているため、入学時約半数近い学生が養護教諭二種免許取得を希望し学修を積む。しかし、2 年間で 126 単位という単位数を取得することは安易な事ではないので、養護教諭二種免許状の最終的な取得率が低い現状である。

レクリエーション・インストラクター資格取得は 27 名 (100%) である。選択希望制であるため 27 年度は 27 名が受講し全員が資格を取得した。授業評価アンケートでも満足度が高い講義であった。【資料 2-6-6】

保育士資格、幼稚園教諭二種免許状、養護教諭二種免許状・社会福祉主事任用資格を併せて取得した者は 67 名 (31%)、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・社会福祉主事任用資格取得者は 187 名 (86%)、保育士資格・社会福祉主事任用資格のみは 19 名 (9%)、幼稚園教諭・社会福祉主事任用資格のみは 1 名 (0.5%) である。本学の目指す幼児教育者の資格を 96% の学生が取得している。これは高い取得率であり、学生、教職員、保護者をはじめとする関係者が協働して取り組んでいる成果の現れであり、各科目の指導や実習指導の内容の充実をはじめ、学生の生活全般を細やかに支援している結果である。【資料 2-6-7】

本学の特色である幼児教育研究会活動を通して取得できる資格（関係団体の内容受講及び実技発表による資格取得）の取得状況は、バルーン初級認定証 15 名、幼児安全法支援員 14 名、裏千家茶道免許状（初級・中級）2 名、裏千家茶道文化検定 4 名、草月流免許状 3 名、社会福祉法人全国手話検定 3 名である。更に集中講義を受講することにより取得できる資格（受講後、関係団体の筆記試験合格にて資格取得）として、おもちゃインストラクター 44 名である。

本学の建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」に則り、学生一人ひとりが二年間の幼児教育研究会を通して自身の特技を磨き、免許・資格を取得することは、

学生の自信となる。幼児教育研究会活動を通じた免許・資格の取得率がさらに上がるように、指導担当教員も働きかけていきたい。【資料 2-6-8】【資料 2-6-9】

【資料 2-6-10】

## 2) 専門職への就職状況

本学は、幼児教育に特化した短期大学であり、開学以来多くの卒業生は保育・福祉・教育等の専門職に就き活躍している。本学の教育目的に沿った教育を実施した結果の最終的な達成状況を点検するにあたっては、学生の就職決定時に行っている「就職支援アンケート(学生の就職に対する満足度調査)」及び、卒業時に調査を行っている「就職の状況」・「就職先の状況」の3点で点検されている。調査の結果、就職に対する満足度は概ね高い数値を得ており、教育目的の達成状況の点検・評価は良好である。また、就職実績についても高い進路決定率を維持できており、教育目的は達成できていると言える。

【資料 2-6-11】【資料 2-6-12】【資料 2-6-13】

## 2-6-② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価結果のフィードバック

本学では、教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての評価を行うために、全学生に対し、「授業評価アンケート」「キャンパス生活満足度調査」「就職先アンケート」を行っている。その評価結果を基に、改善しなければならない事項を見出し、改善方法を検討し、授業内容や方法、就職指導、学生指導等に活かしている。

さらに次年度に向けて、評価項目や調査時期を検討すると共に、様々な角度から教育内容・方法及び学修指導の改善点を確認できるように、その手段を模索している。

### 1) 授業評価アンケート結果からのフィードバック

各科目の目的・目標・内容は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づいて教育課程として計画し、シラバスに従って実施している。シラバスはキャンパスプラン Web 上に掲載しており、学生は常時閲覧可能である。【資料 2-6-14】

各科目で設定されている到達目標・知識・技能等の達成状況を把握するための一つの手法として、学生による授業評価アンケートを実施している。結果は、分野毎(保育総合・体育・音楽・造形・養護)の教員にフィードバックし、分野毎で話し合う機会を設け、意見交換を行い、次年度の効果的な授業展開や方法等の改善に役立てている。【資料 2-6-15】【資料 2-6-16】【資料 2-6-17】

授業評価アンケートは表1の通りであり、自己評価5項目と授業評価6項目を設け、4件法の尺度を用いた。さらに項目には、自由記述できるスペースを設けている。

表：授業評価アンケート用紙

【資料 2-6-18】

授業評価アンケート							
授業科目：				担当教員：			
学年： 1年		2年		性別： 男性		女性	
○で囲んでください。							
この授業アンケートは、今後の授業をより良くするための参考資料とします。 あなたの授業の成績に影響することはありません。							
以下の設問に対し、当てはまる1～4に○をつけて下さい。							
4	とても当てはまる	3	やや当てはまる	2	あまり当てはまらない	1	全く当てはまらない
<b>I 自己評価</b>							
①遅刻・欠席なく出席できた				4	3	2	1
(4：遅刻・欠席0回、3：遅刻・欠席が1回、2：遅刻・欠席が2、3回、1：遅刻欠席が4回以上)							
②授業への取り組み方を理解して受講した				4	3	2	1
③真面目に受講した				4	3	2	1
④わからない事がわかるように、出来なかった事が出来るよう自ら学習した				4	3	2	1
⑤授業で指示された課題を行った。				4	3	2	1
<b>II 授業評価</b>							
①内容に興味をもてた				4	3	2	1
②内容が理解できた。				4	3	2	1
③進度は適切であった。				4	3	2	1
④学習に適した雰囲気であった。				4	3	2	1
⑤使用した教材・教具はわかりやすかった。				4	3	2	1
⑥わかりやすい授業にするための工夫が感じられた。(教え方・板書等)				4	3	2	1
<b>III その他、感じたことを自由に書いて下さい。</b>							

平成27年度の授業評価アンケート結果では、全体的に見てみると平均は3.5以上であることから、自己評価・授業評価ともに高い評価を得られた。また、それぞれの分野における授業評価結果を基に、授業内容・方法の改善策を検討した。

保育総合の分野においては、「保育内容総論」「在宅保育」「社会福祉概論」「児童家庭福祉」「家庭支援論」「障がい児保育」「保育相談支援」「発達保育相談」「子どもの保健Ⅰ」「子どもの保健Ⅱ」「実習総合Ⅰ」「実習総合Ⅱ」「社会的養護内容」の授業アンケート結果から、各授業内容を振り返り、指導方法の改善策を検討した。各科目共通して授業評価「②内容が理解できた」「⑤使用した教材・教具はわかりやすかった」の評価結果が高く、学生は授業内容に満足しているのが解る。視覚教材を使用し、解りやすい授業を行うことで、高い評価結果に結びついている。例えば、「保育内容総論」では、日常保育実践の様子を撮ったDVD等を活用し、映像を視聴しながら教員が説明を加え、保育現場の時系列に沿った保育内容が理解できるよう工夫している。受講時期が1年次で、保育のイメージや、対象の子どもたちの実態がつかみにくいため、より解りやすく事例をあげ課題に取り組むことを、改善策としている。一方、どの科目も、自己評価「①遅刻・欠席なく出席できた」の評価結果が最も低かった。出席の重要性を、科目のオリエンテーション時は勿論、授業の進行に合わせ適宜に伝えることが改善事項としてあげられた。

体育の分野では、1年次の前期必修科目「子ども体育遊びⅠ」「子ども体育遊びⅡ」、1年次の後期必修科目「身体表現指導法」「幼児体育指導法」、2年次前期必修科目「体育実技」、2年次前期選択科目「保育方法論(身体表現コース・幼児体育コース)」「レ

クリエーション講義・実技」、2年次後期必修科目「体育講義」を開講している。それらの授業評価結果を踏まえ、それぞれの授業内容を見直し、指導法の改善点について検討している。

今年度の授業評価においては、どの科目も、全体の平均を上回る授業評価結果を得ることができており、学生は授業内容や教育環境に対し、満足できていると理解できる。各科目の自己評価で最も低い結果が見られたのは、「①遅刻・欠席がなく出席できた」であった。特に2年次開講の「体育実技」においては、低い結果が見られた。この点における教員の改善事項では、各科目のオリエンテーション時に出席の重要性を訴え、欠席多数の学生に対しては声かけをおこない、学生の意識向上に努めるなどがあげられた。また、2年次科目で後期に開講する科目は、就職試験のための自主実習や試験日が該当する事もあることから、欠席が増加していると考えられる。

授業評価結果では概ね満足度の高い結果を得られたが、今後は就職後に求められる資質のニーズに応じていくためにも、就職部実施のアンケート結果も踏まえ、教育内容についても再検討をしていきたい。

音楽では、1年次必修科目「子どもの音楽遊びⅠ」「子どもの音楽遊びⅡ」「幼児音楽指導法」「音楽表現指導法」、2年次選択科目「子どもの音楽遊びⅢ」「保育方法論(幼児音楽コース・音楽表現コース)」について、授業評価結果を踏まえて、それぞれの授業内容を見直し、指導方法の改善点について検討した。

どの科目においても、全体の平均を上回る授業評価結果を得ることができており、学生は授業内容や教育環境においても満足していると理解できる。

各科目の自己評価で最も低い結果が見られたのは、「①遅刻・欠席がなく出席できた」であった。特に2年次開講の「子どもの音楽遊びⅢ」においては、低い結果であった。教員の改善事項では、就職内定後、学生の意欲向上の為の指導に力を入れたい。

造形の分野では、1年次の前期必須科目「子どもの造形遊びⅠ」「子どもの造形遊びⅡ」、1年次後期必須科目「造形表現指導法」、2年次選択科目「方法論(造形コース)」を開講し、シラバスに添って講義実践演習している。授業評価で見られる結果では、概ね受講生は知的理解と実技体験できていると思われる。実技製作活動の面での個人的進捗によるばらつきもあるが、早く課題を消化した受講生に対しては、本学独自テキスト(造ってあそぶ 描いてあそぶ基礎編・応用編)より新たに課題を設け提示、学習進捗を図りながら具体的な保育現場の実践的内容に併せて工夫できるような手立てを講じている。

養護教育については、養護実習必修科目として1年次に「学校保健」、「養護概説」、「看護学Ⅱ・Ⅲ」、「健康相談活動」、「看護学実習Ⅰ」を開講している。その他医薬学等の科目もあるが、今年度の授業評価アンケート結果を総括的に分析した。その結果、「自己評価」において3.1~4.0であることが示され、学生は自身の講義に取り組む姿勢を肯定的に評価していることがわかった。一方、「授業評価」については3.0~4.0であり、いずれの科目についても概ね良好な評価が得られた。また、自由記述部分から、今年度作成したワークブックについて学生から理解しやすかったという意見が多数見られた。しかし、中には進捗が早いという意見や理解が難しいという記述も見受けられ、今後の課題として、①講義内容の進捗、②視覚的・聴覚的な教材の使用、③理解度の定着のための課題について検討する必要があると思われた。【資料 2-6-19】

## 2) キャンパス生活満足度調査結果からのフィードバック

学生部では毎年前期講義終了時に全学生へ、今後のキャンパス生活をよりよくするための参考として、「キャンパス生活満足度調査」を行っている。主に学校施設・学生支援および寮生活等から学生の満足度を把握し、教職員で情報の共有を行い、学生生活改善について必要な内容を検討し、クラスホームルームと学生掲示板において周知している。【資料 2-6-20】

## 3) 就職先アンケート結果からのフィードバック

本学卒業生の就職先（幼稚園・保育園・社会福祉施設）を対象として、着任して 1 年経過後に質問紙を発送し、「本学卒業生に対する評価」についての調査を行っている。この調査結果については、教職員で情報を共有し、教養・専門教育にフィードバックしている。【資料 2-6-21】

平成 25 年度卒業学生の就職先アンケート（平成 27 年 4 月実施）では、本校の卒業生に見られる課題が概ね改善の傾向にある事が読み取れた。しかしながら自由記述の回答からは、いくつかの課題改善を求める訴えが見られた。

就職先からどのようなスキルを求められているのかを明確にし、学内での授業・支援等の改善に繋げるためには、現在のアンケート内容では不十分であると考えられた。今後アンケート内容を見直し、更なる課題の明確化を図ることを次年度の課題としていきたい。【資料 2-6-22】

### （3）2－6の改善・向上方策（将来計画）

3つの観点から学生へのアンケートを実施しているが、学外での学修状況に関する学生へのアンケートについては未実施であるため、次年度より実施する計画である。

経済的理由で除籍になる学生が存在することから、学納金については新たに信販会社教育ローンを借りるという選択肢も検討している。

#### 【エビデンス集・資料集】

【資料 2-6-1】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 2-6-2】 キャンパスプラン Web 上サイト

【資料 2-6-3】 本学HP（情報公開）

【資料 2-6-4】 エビデンス集（データ編）表 2-5 授業科目の概要

【資料 2-6-5】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 2-6-6】 平成 27 年度資格・免許状取得状況

【資料 2-6-7】 平成 27 年度資格・免許状取得状況

【資料 2-6-8】 エビデンス集（資料編）F-2 福岡こども短期大学パンフレット

【資料 2-6-9】 エビデンス集（資料編）F-5 学生要覧

【資料 2-6-10】 平成 27 年度 幼児教育研究会における資格取得状況

【資料 2-6-11】 エビデンス集（データ編）表 2-11 卒業後の進路先の状況

- 【資料 2-6-12】 エビデンス集（データ編） 表 2-10 就職の状況
- 【資料 2-6-13】 就職支援アンケート
- 【資料 2-6-14】 本学キャンパスプラン「シラバス」
- 【資料 2-6-15】 本学HP（情報公開）
- 【資料 2-6-16】 エビデンス集（資料編） F-3 福岡こども短期大学学則
- 【資料 2-6-17】 本学キャンパスプラン「シラバス」
- 【資料 2-6-18】 「授業評価アンケート」
- 【資料 2-6-19】 「授業評価アンケート」集計結果
- 【資料 2-6-20】 学生生活満足度調査結果
- 【資料 2-6-21】 就職先アンケート
- 【資料 2-6-22】 就職先アンケート

## 2-7 学生サービス

### 《2-7の視点》

#### 2-7-① 学生生活の安定のための支援

#### 2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

#### (1) 2-7の自己判定

基準項目 2-7 を満たしている。

#### (2) 2-7の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### 2-7-① 学生生活の安定のための支援

学生の生活支援は、学生が充実した学生生活を送るための重要な支援であると位置づけている。学生部は定期的に学生委員会を実施し、学生を取り巻く諸課題の解決に取り組んでいる。学生委員会にて決定された事項は速やかに地区アドバイザーならびにクラス担任へ通達され、教員間の円滑な情報共有を行っている。健康相談としては安全衛生に配慮し、健康的で安定した学生生活を送れるよう保健室、学生相談室、カウンセリング室を設置し、年1度の健康診断、怪我や体調不良の応急処置、日々の健康相談などを行っている。また、学生が学生生活や修学における諸問題について相談できるよう、地区アドバイザーやクラス担任による個人面談を随時行い、心の問題等の解決に努めている。【資料 2-7-1】【資料 2-7-2】【資料 2-7-3】【資料 2-7-4】

【資料 2-7-5】【資料 2-7-6】

在学生の勉学を経済的側面から支援するものとして、平成 26 年度の入学生において、日本学生支援機構の奨学金（利用率 59.3%）を扱っており、多くの学生が利用し

ていた。さらにアルバイトについては社会福祉施設等の行事支援など有意義な体験となる内容、かつ、学業に支障をきたさないものを選び、紹介している。社会人、編入、転入の支援状況としては特別な支援を行っていない。しかしながらこれらの入学生が既卒などの状況で単位読み替えを認められる場合、それを認めている。【資料 2-7-7】【資料 2-7-8】【資料 2-7-9】【資料 2-7-10】【資料 2-7-11】

課外活動について、全学生の所属する幼児教育研究会が相当し、専任教員が指導に当たっている。しかしながら専門性が高く専任教員の専門としない研究会に関しては特別講師を招聘し指導にあたっている。活動としては本学附属園をはじめ、近郊の保育所、幼稚園、児童養護施設、特別支援学校などの行事にボランティアとして積極的に参加している教員と学生による地域貢献活動の一つとして、太宰府市キャンパスネットワーク会議が相当し、本学は太宰府市内の大学・短期大学で組織されている「学生連絡会」で市民と学生の交流・大学同士の交流を推進するために学生間交流イベントをはじめ、市民政庁まつりキャンパスフェスタへの参加を促している。この様に学生生活安定のための支援を準備しているが、より多くの学生の意見を汲み取るべく、年 1 回学生サービスに対する調査を実施している。さらに意見箱を設置し学生の要望を常に汲み取れるよう配慮している。

【資料 2-7-12】【資料 2-7-13】【資料 2-7-14】【資料 2-7-15】【資料 2-7-16】

【資料 2-7-17】【資料 2-7-18】【資料 2-7-19】

その他、学生生活安定のための支援として、住居支援としては学園の保有する学生寮（紅梅寮・オックスフォードハウス・ケンブリッジハウス）を用意している。さらに、学生の通学支援として、JR 二日市駅と学生寮（ケンブリッジハウス寮）から、キャンパスまで無料のスクールバスを随時運行し通学の便宜を図っている。【資料 2-7-20】

【資料 2-7-21】【資料 2-7-22】【資料 2-7-23】【資料 2-7-24】【資料 2-7-25】

【資料 2-7-26】【資料 2-7-27】

## 2-7-② 学生生活全般に関する学生の意見・要望の把握と分析・検討結果の活用

学生サービスについて「キャンパス生活満足度調査」を全学生に対して実施している。この調査は 4 件法のアンケート調査として実施し、結果は全体的に平均値 3.0 を推移している。中でも高得点であった項目は学生食堂、イングリッシュガーデンと奨学金に関する項目で、学生生活の安定に寄与しているものと考えられる。一方、低かった項目として学生相談室と保健室、カウンセリング室の利用に関する項目が挙げられた。この原因として、学生への周知が出来ていないものと考えられ、次年度以降の対応課題である。【資料 2-7-28】【資料 2-7-29】

### (3) 2-7 の改善・向上方策（将来計画）

キャンパス生活満足度調査から問題点として挙げられた学生相談室と保健室利用に関して、入学時のオリエンテーションによる周知の徹底、部屋の掲示を適切に行う必要性が考えられる。これらの対応で、学生が困った時、体調不良時に速やかに配慮出来るようにする。さらに改善されたか否かについても、次年度の調査から明らかにする。

寮の利用について、次年度以降は紅梅寮を閉鎖する。これはオックスフォードハウス、ケンブリッジハウスに十分な収容能力があり、一括管理が可能かつ容易であることを理由とする。

**【エビデンス集・資料集】**

- 【資料 2-7-1】 学生委員会 議事録
- 【資料 2-7-2】 エビデンス集（資料編） F-2 福岡こども短期大学パンフレット
- 【資料 2-7-3】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-4】 本学HP（情報公開）
- 【資料 2-7-5】 エビデンス集（データ編）表 2-12 学生相談室、医務室等の利用状況
- 【資料 2-7-6】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-7】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-8】 日本学生支援機構の奨学金利用状況
- 【資料 2-7-9】 奨学金を利用する皆さんへ
- 【資料 2-7-10】 奨学金のしおり
- 【資料 2-7-11】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-12】 エビデンス集（資料編） F-2  
福岡こども短期大学パンフレット
- 【資料 2-7-13】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-14】 本学HP（情報公開）
- 【資料 2-7-15】 エビデンス集（データ編）表 2-14 学生の課外活動への支援状況
- 【資料 2-7-16】 幼児教育研究誌
- 【資料 2-7-17】 リーダーズ研修のしおり
- 【資料 2-7-18】 キャンパスネット情報
- 【資料 2-7-19】 キャンパス生活満足度調査
- 【資料 2-7-20】 エビデンス集（資料編） F-2  
福岡こども短期大学パンフレット
- 【資料 2-7-21】 エビデンス集（資料編） F-4 学生募集要項
- 【資料 2-7-22】 エビデンス集（資料編） F-5 学生要覧
- 【資料 2-7-23】 本学HP（情報公開）
- 【資料 2-7-24】 エビデンス集（データ編）表 2-26 学生寮等の状況
- 【資料 2-7-25】 入寮のご案内
- 【資料 2-7-26】 寮生心得
- 【資料 2-7-27】 スクールバス運行表
- 【資料 2-7-28】 エビデンス集（資料編） F-2  
福岡こども短期大学パンフレット
- 【資料 2-7-29】 本学HP（情報公開）

## 2-8 教員の配置・職能開発等

### 《2-8の視点》

- 2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置
- 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み
- 2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

#### (1) 2-8の自己判定

基準項目2-8を満たしている。

#### (2) 2-8の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

### 2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

表 F-6 に本学の教員組織について示している。短期大学設置基準では、教育学・保育学関係については 19 名の専任教員を配置することとされているが、その基準値に比して本学の専任の人数は 26 名となっており、十分な教員数を確保している。また、その内の教授数は 11 名となっており、こちらも基準を上回る教授数が確保され、年齢構成のバランスも取れている。【資料 2-8-1】【資料 2-8-2】

さらに、教員免許状・資格に関する教員数については、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、養護教諭二種免許状に関する各教員数基準もすべて満たしている。【資料 2-8-3】

【資料 2-8-4】

### 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員配置、研修、FDをはじめとする教員の資質能力向上への取組み

教員の採用および昇任に関しては「都築育英学園任免規定」、「福岡こども短期大学教員資格審査規定」が定められている。運用は規定に基づき、実施責任者として学科長が候補者を公募、学長を中心に選考し、理事会の承認を経て決定している。昇任については、教授会において学長が意見を聞くことが必要とした場合は意見を述べた後、学長の適切な判断によって決定されている。なお昇任の際の給与額変更などは、「都築育英学園 給与規定」に基づいて適切に決定されている。【資料 2-8-5】

教員の資質・能力向上のための研修として、新任教員は毎年夏に行われる「全国保育士養成協議会九州ブロック研究大会」へ参加し、幼児教育・保育の研鑽を図っている。教員組織全体では、円滑な学校運営を目的とし、毎週定期的に FD・SD 研修を兼ねた教職員連絡会を設けている。講義においても、幼児音楽・幼児体育・幼児美術・言語・保育総合・養護教育といった各分野の担当教員によって新年度講義開始前や終講後に適宜「保育内容検討会」や「養護教育内容検討会」を実施し、講義内容を評価、改善を行っている。このようにより効果的な実践授業の工夫をしている他、保育内容について全体的に検討する場を共有している。【資料 2-8-6】【資料 2-8-7】

【資料 2-8-6】

保育内容検討会【保育内容関連教員および保育実習担当教員】	
第1回	2016年2月1日（月） 本館会議室に於いて 「14年次生 指導案の確認・検討①」
第2回	2016年2月19日（金） 本館会議室に於いて 「15年次生 指導案の確認・検討②」
第3回	2016年3月10日（木） 本館非常勤講師室に於いて 「保育実習日誌記入例の検討①」
第4回	2016年3月25日（金） 本館会議室に於いて 「保育実習日誌記入例の検討②」

【資料 2-8-7】

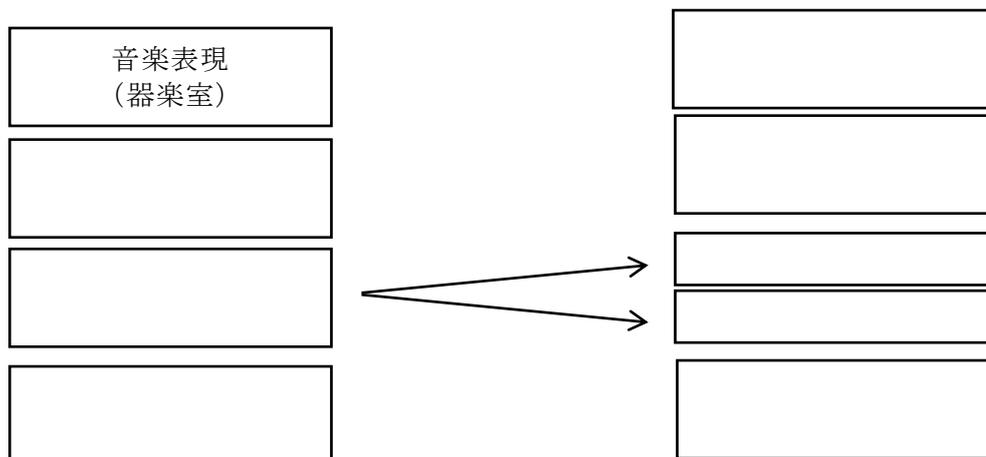
養護教育検討会【養護教育担当教員】	
第1回	2015年4月10日（木） 本館204教室に於いて 「14年次生 養護実習確認」
第2回	2015年5月29日（金） 本館204教室に於いて 「15年次生 到達度テスト成績確認」
第3回	2015年7月17日（金） 本館204教室に於いて 「14・15年次生 実習必修単位／成績確認」
第4回	2015年9月6日（土） 本館204教室に於いて 「14年次生 養護実習反省」
第5回	2016年1月22日（水） 本館204教室に於いて 「16年次生 養護教育・養護実習内容検討①」
第6回	2016年2月18日（金） 本館204教室に於いて 「14・15年次生 実習必修単位／成績確認」
第7回	2016年2月20日（金） 本館204教室に於いて 「16年次生 養護教育・養護実習内容検討②」
第8回	2016年2月27日（金） 本館204教室に於いて 「16年次生 養護教育・養護実習内容最終確認」

また、「保育方法論」では、6コースの専門領域に分かれ研究保育を実践しているが、その中で他コースとの交流を図って意見交換をする機会を持つとともに教員間の公開授業の場となっている【資料 2-8-7】。

【資料 2-8-8 交流保育実施計画】

平成 27 年度 保育教職実践演習 交流保育実施計画

【日 時】 平成 27 年 12 月 14 日（月） 1・2 校時



さらに、FD 活動としては、1 年に 3~4 回、「こども教育勉強会」を開催している。本学の教員が、本学の教職員や卒業生、学生等を対象に専門領域の研究について発表し、その後、質疑応答やディスカッションを実施し、教員の資質・能力の向上に寄与している。【資料 2-8-8】

【資料 2-8-9 こども教育研究会】

こども教育研究会	
第 1 回	【日 時】 2015 年 7 月 22 日（水） 本館 302 教室に於いて 【主 題】「ダンス（表現）指導における現状と課題」 【話題提供者】 怡土ゆき絵 講師 【対象者】 本学教職員・卒業生・学生等
第 2 回	【日 時】 2015 年 11 月 27 日（金） 本館 302 教室に於いて 【主 題】「音楽で子どもを貧困や犯罪から救う～ベネズエラの挑戦」 【話題提供者】 中川淳一 准教授 【対象者】 本学教職員・卒業生・学生等
第 3 回	【日 時】 2016 年 3 月 11 日（金） 本館 302 教室に於いて 【主 題】「子ども・子育て支援新制度について」 【話題提供者】 瀧 信子 教授 【対象者】 本学教職員・卒業生・学生等

2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

本学は保育専門の単科短期大学として保育者養成に従事している。一方で、保育者養成のみならず、その土台ともなるべく一般社会人としての素養についても教育（教

養教育)に力を注いでいる。

英語教育は、英語圏の外国人専任教員による“生きた英語教育”を実施している。体育においては、学生が卒業後も一生涯に渡って健康的な生活を送れるよう、実技と講義の両面から授業を展開している。

さらに、本学は将来保育者という専門職志望の学生がほぼ100%入学してくる現状から、マナー教育に対して特に力を入れており、講師には地方自治体や一般企業の経験豊かな人材を配置している。そして、幼児教育や保育現場におけるIT化を考慮し、情報技術には関連校(日本経済大学)からIT教育に熟知した講師を招いて実施している。

### **(3) 2-8の改善・向上方策(将来計画)**

現在実施しているFD活動「こども教育勉強会」を引き続き実施すると共に、将来、SD研修が単に事務職員における研修だけではなく、全教職員のそれぞれの立場によるSD研修活動が義務化されることも考慮し、来年度からは積極的に外部研修も取り入れていく。

#### **【エビデンス集・資料集】**

- 【資料 2-8-1】 エビデンス集(データ編)一覧【資料集】F-6 全学の教員組織(学科等)
- 【資料 2-8-2】 エビデンス集(データ編)一覧【資料集】表 2-15 専任教員の学科・専攻科ごとの年齢別の構成
- 【資料 2-8-3】 教職課程認定申請の手引き 教職課程認定基準(平成26年度改訂版)」(文部科学省)
- 【資料 2-8-4】 「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」(厚生労働省)
- 【資料 2-8-5】 エビデンス集(資料編)一覧【資料集】F-9 都築育英学園給与規程
- 【資料 2-8-6】 保育内容検討会
- 【資料 2-8-7】 養護教育検討会
- 【資料 2-8-8】 交流保育実施計画
- 【資料 2-8-9】 こども教育研究会

## **2-9 教育環境の整備**

### **《2-9の視点》**

- 2-9-① 校地、校舎、設備、実習施設、図書館等の教育環境の整備と適切な運営・管理**

## 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

### (1) 2-9の自己判定

基準項目2-9を満たしている。

### (2) 2-9の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

本学の校地面積は9,823m<sup>2</sup>であり、併設の日本経済大学の共有地の7,229m<sup>2</sup>を含めると17,052m<sup>2</sup>となる。校舎は9,133m<sup>2</sup>で、同じく共有部分の1,778m<sup>2</sup>を含め10,911m<sup>2</sup>である。これは短期大学設置基準上必要な要件（校地基準面積7,000m<sup>2</sup>・校舎4,850m<sup>2</sup>）を十分に満たしている。【資料2-9-1】

校舎は、本館（4階建）、こども劇場、厚生会館（2階建）からなり、校舎内は土足禁止とし、廊下にはタイルカーペットを敷き、こどもフェスティバルや研究保育で子どもたちが校舎内に立ち入る際の安全対策を施し、各階段に手すりを設置している。

こども劇場は、照明、音響、映像機器を整えており、本格的な舞台設備を完備している。特に、ステージは、催しに応じて舞台を調整できる、電動2段昇降式となっており、半円形のステージを囲む観客席は約500席、可動客席を加えると600席となり、子どもたちは700人を収容することができる。この劇場は学生の実習・発表等に利用されると共に、隣接する附属のだいいち保育園・だいいち幼稚園をはじめとする、近隣の園児と学生の交流の場として、大いに活用されている。また、園児が利用することを踏まえ、弾力性のある床材を使用するなど、安全性が確保されている。

体育館は、本館401教室及び福岡こども短期大学体育館がある。現在体育授業の他、幼児教育研究会活動に使用している。その他にテニスコート1面、運動場（日本経済大学との共有）は芝を植え、発表会やイベントで使用している。同学園のリンデンホールスクール小学部・中高学部の所有する200メートルトラックを持つ運動場が本学園の南側にあり授業等で使用している。校舎外では、厚生会館の1階に学生食堂、2階は多目的ホールとして有効に活用されている。【資料2-9-2】

実習施設として、Simulation of Kindergarten（幼児教育実習室）があり、モンテッソーリ教材・人形劇舞台・紙芝居など教材教具を備えた保育室をイメージしてつくられ、子どもを交えた研究保育に使われている。また小児栄養の授業で離乳食などの調理実習を行う教室として208教室、おむつ交換・沐浴などの実習を行う小児保健の授業の教室として204教室がある。その他、養護教育の演習の場として304教室が活用されており、各種実習に必要な教材が取り揃っている。ML(Music Laboratory)教室は電子ピアノを60台備え、ピアノの技術習得など音楽に関する授業に使用されている。その60台の電子ピアノは一括管理され、学生がどのようにピアノを練習しているか随時担当教員によって確認でき、学生に迷いや困難に陥った際には、即時に対応できるシステムになっている。

また本館4階には100のピアノ練習室があり、授業の合間や放課後いつでも自由に使い、授業や就職に向けての学生一人ひとりにおける技術鍛錬の場となっている。

さらにキャンパス内には、西日本最大級の広さを誇る、10万坪のイングリッシュガーデンを整備し、年間を通じて四季折々の自然環境を楽しめる場所を地域の方々にも開放し、本学における地域貢献の一役を担っている。

図書館は、書庫 155m<sup>2</sup>・閲覧室 149m<sup>2</sup>・事務室 25m<sup>2</sup>を備え、単科で幼児教育専門という特長を生かし、専門書を中心に 39,737 冊蔵書している。授業に関連する参考図書については、各領域（幼児音楽、幼児美術、幼児体育、保育総合、実習、養護）の専門教育科目を中心に整備、収集、充実を図っている。特に学外実習に関連する資料の中でも、絵本・紙芝居・エプロンシアター・パネルシアターは最も多く利用される教材で、実習時には大変多く利用されている。【資料 2-9-3】【資料 2-9-4】

また、学内の情報発信として、年 1 回、図書館報「梅苑」を発行し、学生の読書感想文や教員のお薦め図書の紹介等を掲載しており、これは保育者になる学生にとって、その後の啓発となっている。【資料 2-9-5】

## 2-9-② 授業を行う学生数の適切な管理

授業を行う学生数の適切な管理については、1 クラスあたり 50 人であり、教育効果を十分に上げられる人数編成で行っている。実技科目及び演習科目は基本的には 1 クラス単位で行っているが、講義科目によっては、2 クラス及び 3 クラス合同での授業で行い、ピアノの弾き歌いの授業など、学生個々への指導が必要な科目においては、より小規模な授業形態（1 グループ 12 人程度）で執り行っている。

このように、法令上の基準を基としながら、各科目の特徴を学生に対してより理解しやすい形態で運営している。

### (3) 2-9 の改善・向上方策（将来計画）

各施設、設備の持続管理は耐震工事計画、ピアノ練習室リノベーション工事など、中長期的な計画を立て、毎年計画に基づき修理、更新を進めている。

#### 【エビデンス集・資料集】

【資料 2-9-1】 エビデンス集（データ編）一覧【資料集】表 2-18 校地、校舎等の面積

【資料 2-9-2】 エビデンス集（データ編）一覧【資料集】表 2-22 その他の施設の概要

【資料 2-9-3】 エビデンス集（データ編）一覧【資料集】表 2-23 図書、資料の所蔵数

【資料 2-9-4】 エビデンス集（データ編）一覧【資料集】表 2-24 学生閲覧室等

【資料 2-9-5】 図書館報「梅苑」

## 基準 A. 地域貢献

### A-1 短期大学が持っている物的・人的資源の地域への提供

#### 《A-1の視点》

#### A-1-① 短期大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、短期大学が持っている物的・人的資源の地域への提供

##### (1) A-1の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

##### (2) A-1の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

#### A-1-① 本学における地域貢献の展開と貢献度

本学の地域貢献は、大きく分けて3つのカテゴリーに分類される。一つは、本学教員による地域貢献であり、二つ目は全学による公開講座の開催であり、三つ目は本学独特の少人数制の幼児教育科目であり、他大学では部活動に匹敵する「幼児教育研究会」単位での地域貢献として区分されるものである。

まず一つ目の本学教員による地域貢献は、各教員の業績書に記載されているように地元太宰府市、筑紫野市内の幼稚園、保育園、児童福祉施設における子育て支援に関する講演、実技指導、園内研修講師などの社会的活動があげられる。この活動は地元だけでなく周辺の自治体、指定市の福岡市・北九州市をはじめ、遠くは九州各県の自治体、保育関連施設まで及ぶものである。またこの本学教員による社会的活動は、保育、子育て支援ばかりでなく、高校・中学校の進路説明などの講師引き受けなどの次世代育成支援まで含まれるものである。また本学教員の臨床心理士は、周辺自治体内の幼稚園・小学校・中学校のスクールカウンセラー、学校教員対象の心理面の研修講師、本学周辺に住む発達障がい児やその恐れのある子ども、就園、就学困難の子ども達そしてその保護者対象の支援活動を本学拠点に実施している。

また毎年夏季休暇中に本学で開催される「公開保育セミナー」では、本学卒業生のみならず、地域の保育者・子育て中の保護者を対象に、本学教員が得意としている幼児音楽、体育、美術、保育総合、保健・看護各分野の実践講座を実施している。

次に全学による公開講座として、毎年定期的で開催しているものが、4月末の「こどもの日を祝う集い」、7月初旬に太宰府市と共催で行われる「太宰府七夕まつり」そして10月の最終土・日曜日に本学で行われる「子どもフェスティバル」があげられる。

まず「こどもの日を祝う集い」では本学に、地域の幼稚園、保育園園児、子育て中の親子等 800 名以上の幼児が参加して、一日本学で在学学生全員が計画した行事を通して遊ぶものである。7月の「太宰府七夕まつり」では、太宰府市中央公民館全館を貸し切って、日本古来の伝統行事である七夕を意識しながら、ホール舞台公演や七夕の短冊、折り紙、手作りおもちゃなどの創作活動を展開して、地元太宰府市のみならず周辺地域から 700 名以上の幼児・児童またその保護者が訪れる。そして最大の公開講

座が「子どもフェスティバル」である。この公開講座は、すべての幼児教育研究会のメンバーである全学の在学生在が2年間の幼児教育研究活動の集大成として催されるもので、土、日曜日の2日間に、近郊から遠くは県外の幼児・児童またその保護者が、多い年は約2000名が来学して、各幼児教育研究会が発表する演技、演奏、製作など様々の遊びを在在学生とともに行うものである。

それ以外にも、幼児教育研究会が単体あるいは合同で、地域や近郊の自治体での催しや保育関連施設、障がい児施設等の児童福祉施設に出向き公演や支援を実施している。

これらの子ども・子育て支援とひとまとめに括れない多様かつ頻繁に地域貢献、支援を実施している大学、短大組織は、全国的にもあまり例がないと考えるが、では何故ゆえに実行できるかという点、本学が幼児教育・保育を中心とするこども教育単科の短期大学であり、その中でも建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」を具現化した独自の教科目である「幼児教育研究Ⅰ・Ⅱ」を履修するための幼児教育研究会活動を、本学教員の協働による指導の下、全学あげて推進しているからである。

またこれらの活動、地域貢献に対して地元自治体であり学研都市である太宰府市から、平成24年、「市民活動賞」を授与され、これは同市において大学組織に対する初の表彰であった。

### **(3) A-1の改善・向上方策（将来計画）**

本学への地元や周辺地域そればかりでなく、遠くは県外からも子育て支援に関する要請は年を経るごとに増加傾向にある。無論それら全ての要請に対応したいところであるが、本学は既述してきたように、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、養護教諭二種免許状というそれぞれの教育課程に基づいて履修が実施されている。この場合2単位15コマの授業展開を必要とする教科目が多くあり、学修期間が2年間で、その中で実習も数多く含まれていることから、自ずと対応にも限界がある。

しかし子ども・子育て支援という地域からの社会的要請は増加の一途をたどっているというジレンマを抱えているという現状の中で、いかに効率よく対応していくかを考える時期に来ており、来年度より中長期的見直しを進めていく。